

平成26年度卒業式及び平成27年度入学式の学長式辞

石 本 勝 見

はじめに

平成27年3月15日、新潟中央短期大学の学長として初めて卒業式の式辞を述べた。

2年間の学びを終え、いよいよ社会に旅立つ卒業生に、「支えられる者から支える者」へと立ち位置が大きく変わることに、このことをしっかりと踏まえ、何が起きるか予想もつかない現実の社会の中で、大事にして欲しいことは「生きる力、生き抜く力」である、それを自らが高めていくと同時に、保育の専門職として、その力を子どもの心の真ん中に育てて欲しいことなどを語った。

また平成27年度の入学式では、スタートの時点から「卒業後の理想とする保育者像」を心に描き、なりたい自分を創って行って欲しいことなどを伝えた。

翻って、自分としても「なりたい自分、あらまほしき教員・学長像」をイメージしながら職務に専念し役割を果たしていかなければならない、と決意した次第である。

平成26年度卒業式 式辞（原稿）

卒業式を挙げるに当たり、ご多忙のところ加茂市長小池清彦様、田上町長佐藤邦義様、元本学学長塚康弘様はじめ多数の御来賓の皆様から御臨席いただき誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとう。短期大学は4年制の大学に比べて期間が短いとはいえ、保育士、幼稚園教諭の両資格免許取得を目指す本学では、各種の実習をはじめ、多くの必修科目の単位を取得することが求められており、それこそ忙しい日々であったことと思います。こうした状況を乗り越え、本日ここに卒業を迎えた皆さんに、改めて心からその努力を讃えるものであります。

学生から社会人になるということは、これまで教えられる立場から、教える立場へ、支えられる立場から支える立場に変わるということであり、黒板に向かっていた自分から黒板を背にする自分へ、いわば180度変化した立場で自分の役割を果たすということでもあります。

このような自らの立ち位置の大きな変化をしっかりと踏まえ、さらに社会で生きて

いく、本学で学んだ専門性を生かして仕事をしていくという時に、保育や福祉の専門職として仕事をしていくときに、その専門的な知識や技術さえあれば、それで十分かと問われれば、それは必要条件ではあるが十分条件ではないと言わざるを得ません。

社会は、専門家が専門家であることは当然のこととして、そのうえで、一人の人間としてどう生きているか、を評価している、ように思います。

どうか、普通の人の普通のマナー、常識を大事にしてほしいと思います。

社会で生きていくために本当に大事なことは、先ず自分が生きること、生き抜くことが大事です。しかしこのことだけでは、まだ不十分です。

社会とは、自分と自分以外の人々が互いにつながりをもって生きているところです。社会で生きるとは、自分の隣にいる人、前にいる人、後ろにいる人と一緒に、そうした人たちと共にウエルビーイング生きていくということです。

自分が自分らしく生きたい、自分の願いや思いを大事にしたい、と思うのと同時に、他者もまたそのように生きたい、と願っています。ここに人間関係の摩擦やトラブルの大きな理由があるように思います。このような現実で、共に気持ちよく生きていくために大事なことは何か？

それは、まずもって、自分が大事にされたい、認められたいと願うことは、他者もまたそう願っている、と深く認識することが必要であると思います。あなたも私も大事な人だ、ということです。

そのことを踏まえ、さらに、互いの違いだけに注目するのではなく、私とあなたに共通するものに目を向け、探すこと、そして共に「同じ」であること認めること、認め合うことが大事です。その過程で信頼や絆、共感が生まれるのではないかと考えています。

「同じ」ものは、積極的に見ようとしないう限り、なかなか見つかりません。同じ何かをもっていると感じた時に、私たちは相手を信頼し心を開くのだと思います。しかし、違いは当然あります。一人として同じ人間はいないわけです。違っていいのです。そのことを受け止めつつ、また尊重しつつ、同時に、私とあなたと同じであること、同じものをもっていること、人間として同じであること、たとえ子どもであっても、障害がある人であっても、高齢の方であっても、このことを気持ちよく認め合うことが社会で共にウエルビーイングに生きていくために大事ではないかと考えています。

ここで、もう一度「生き抜く」ということを考えてみたいと思います。これからの人生、いいこともあります、うまくいかないこともあります。自分の力だけでは解決できない課題があるでしょう。

このことも「当たり前」のことです。人間の一人の力は限られていますし、今の時点では、解決する力がまだ自分には育っていないことも多々あります。私もそうです。

このようなときに、どうか、自分のわからないことは、わかる人に聞いてください。もちろん自分の力で最善を尽くすのは当然です。しかし、自分のすべての力を尽くしても解決できない時は「助けて」と言っているのです。いや言うべきです。一人でその重荷に耐えかねて自分が壊れる、壊すことは決してすべきではありません。

自分を信じ、他者への信頼を忘れず、たくましく生きてほしいと思います。基本的に世の中は「助けたり助けられたり」であると信じています。またそうありたい、と願っています。

どうか皆さん、ここまで自分を磨いてきました。その力を存分に発揮して、胸を張って、自分らしく生き抜くと同時に、他者を思いやり、他者が気持ちよく生きること、育つことにも意を用い、さらに社会で、現場で子どもたちとの、周囲の人々との関わり、やり取りの中で学び続け、自己の人間性と専門性を磨いていって欲しいと思います。

いまバトンを受け取り、走り出そうとしている皆さんに、心からのエールをおくります。

最後になりましたが、卒業生のご家族の皆様、本日は本当におめでとうございます。こころからお祝いを申し上げますとともに、これまで、さまざまな面で本学を支えていただきましたことに対して厚く御礼を申し上げます。

重ねて、卒業生の皆さんの今後の活躍を祈り、期待しつつ学長としての式辞とします。

平成27年 3月15日

新潟中央短期大学学長 石 本 勝 見

平成26年度卒業式

幼児教育科第33回

平成27年 3月15日

加茂文化会館 午前11時開式

卒業生 87人

平成27年度入学式 式辞（原稿）

本日ここに平成二十七年度新潟中央短期大学入学式を挙げるに当たり、加茂市長小池清彦様、田上町長佐藤邦義様、元本学学長長塚康弘様はじめ多数の御来賓の皆様から御臨席をいただき、誠にありがとうございます。

ただいま入学を許可された新入生の皆さん、入学おめでとう。ここから歓迎します。

これから大学での学びが始まりますが、これまでの中学や高校での学び方、学ぶ姿勢と大学での学び方、学ぶ姿勢は少し違う面があるように感じています。

ややもしますとこれまでは、高校に入るための、大学に入るための学習が強調されてきたのではないかと思います。

一般的に、日本の大学では、一部の研究者やより高度な専門的職業を目指す学生を除けば、次の上級学校、大学院等を目指すのではなく、社会で働く、活躍できる力をつけることが求められていると思います。いわば、学校という特別な場所で、社会に出て活躍できる力を磨いてきている、と言えるかもしれません。当たり前のことですが、我々は学校という社会に適応することが目的ではなく、社会という様々な人間が生きて、生活している大きな場面で、いかに自分らしく生きて、同時に、共に生きている人々の幸せな生活、Well beingに、いかに貢献できるか、が問われていると思います。

したがって、大学で学ぶというときには、広く、大きく目を開いて、地域社会、日本のみならず世界にも眼差しを向けていくことが基本的に大事であります。

さて、本学は、ご承知の通り幼稚園、保育園の保育者養成を主な目的としています。これから本学での学びが始まりますが、どうか、自分が暮らすコミュニティ、社会で、幼稚園で、あるいは保育園等で、自分がどのような自分であったらいいのか？どのような知識やスキル、マナーや態度が求められているのか、そのことを常にイメージしながら学生生活を送っていただきたいと思っています。

理想とする人物像、イメージにはまだまだ及ばない現実の自分がいることと思います。スタートラインに立った皆さんとしては当然のことと思いますし、それでいい、と思います。なりたい自分、目指したい保育者のイメージをしっかりとって、その実現に向かって、しっかりと学んでいってほしいと思います。

もし、このように学び続けることができたなら、日本に沢山ある、他の保育者養成大学で学んでいるどの学生にも負けない、子どもたちに慕われ、保護者や地域の皆さんに信頼される保育者になることができると固く信じています。

皆さんが本学を選び、本学で学ぶことを決められたことに対して、私は心から嬉し

平成27年度入学式式辞（原稿）

く思い、そうした皆さんを心から歓迎すると同時に、これからの望ましい方向への大きな変容を楽しみにしています。

最後になりましたが、ご家族、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。私も教職員一丸となって、一人ひとりの夢の実現のために応援してまいります。これからも本学に対しまして、御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、学長としての式辞といたします。

平成27年4月3日

新潟中央短期大学学長 石 本 勝 見

- 1 日 時 平成27年4月3日（金） 午後1時30分から
- 2 会 場 本学体育館
- 3 入学者 84人（内3人社会人）